

建築的視点による設備デザイン

建築を整えるPanasonic「Archi Design」

— 「空間価値」と「環境貢献」を目指す取り組み —

パナソニック エレクトリックワークス株式会社 デザインセンター 所長 杉山雄治

1 Archi Design が生まれた背景

近年、建築に求められる価値は、「機能」や「性能」に加え、「空間の質」や「体験価値」へと大きく広がりを見せている。人の行動や感覚に寄り添い、快適で心地よい環境をいかに創出するかが、建築において重要なテーマとなっている。

そのような中で、照明器具や配線器具、空調機器といった電気設備は不可欠な存在である一方、設計者にとっては頭を悩ませる存在であり、空間の質を高める要素として十分に機能してきたとは言い難い面があった。

従来、これらの設備は照明・配線・空調といったカテゴリごとに個別最適化され、それぞれの性能や機能を高める方向で進化してきた。現状弊社の電気設備だけでも多種多様なアイテム、性能の微妙な差異、カラーバリエーションなど50万品番にも及ぶ。実際の建築空間では、それらがひとつの天井面や壁

面に共存するため、サイズや色、仕上げの違いが視覚的なノイズとなり、空間を散らかし、統一感を損なう要因となっていた。

例えば天井を見上げても、ダウンライト、非常用照明、人感センサー、火災警報器、スピーカーなど秩序なく散在している光景を目にすることが多い。

設計者はその都度、配置や納まりを工夫することで空間を「整える」努力を重ねてきたが、本来その負担は設備側で解決すべき課題であった。このような状況を受け、設備機器メーカーとしての責任を改めて認識し、電気設備全体を一貫した建築的思想で背骨を通す「Archi Design」という取り組みを開始した。「Archi」とは建築という意味はもちろんのこと接頭語として本質・原型という意味を持ち、「Design」は意匠だけでなく設計・計画を意味する。この取り組みは名称の通り「設備は建築の中で本来どのようにあるべきか」という原点から捉え直す試みである。

Archi Design

